# テレスコープ技報　（1）

ミヤタテレスコープ技術研究所

1986〜1997 年

1986 年 2 月ハレー彗星出現に向けて主鏡 200mm F6.0 のドブソニアン型反射望遠鏡を製作する。反射鏡は足利市在住のマニアの斡旋で購入した。本体は合板、架台は子供の学習イスを改造、その形から別名「イスアンドン」。1986 年 3 月筑波山でのハレー彗星の観測や 1997 年 2 月ヘールボップ彗星の観測で活躍する。

2002 年 9 月

主鏡の Al 蒸着膜が腐蝕したため再蒸着をする。

外装も再塗装、光軸調整精度を向上させるため底面の主鏡支持部を 3 点方式に改良する。

再蒸着後の主鏡と斜鏡

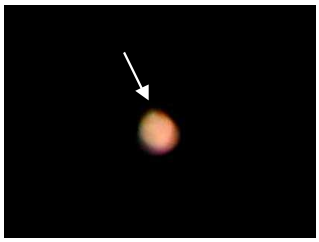
2002 年 11 月

接眼筒部のデジカメ用アダプターを製作、デジカメによる天体撮影を始める。しかし、架台が一本の長軸で脚部が 4 点接地のため安定性が悪く、風やわずかのショックで本体が揺れてしまいデジカメ撮影の障害となることが分かった。

2003 年 3 月

架台の安定性を向上させるため全面再設計、脚部は 3 点接地、水平方向の回転はキャスターを利用、本体構造はイレクターを使ってトラス構造とした。

ドライアイスの極冠

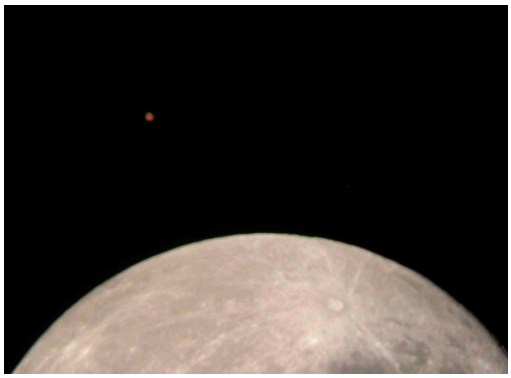


2003 年 8 月

大接近した火星の観測に威力を発揮、特にデジカメ写真の解像度は格段に向上した。

那須高原での火星観測会

月ティコクレーターと火星



＊次号はさらなる改良と次期大口径化の構想です